

公益社団法人私立大学情報教育協会  
令和3 年度第2 回 基本調査委員会 議事概要

- I. 日時 : 令和3 年9 月21 日 (火) 18:00 から 20:00  
II. 場所 : 私情協事務局 (ZOOM による TV 会議)  
III. 出席者 : 山名担当理事、真鍋委員長、井上委員、今井委員、高木委員、片岡委員、  
今泉アドバイザー、端事務局長、森下主幹

IV. 資料

- ① 私立大学教員授業改善調査 調査内容の構成とアウトカムの内容 (メモ)
- ② 私立大学教員授業改善「目的及び調査内容の 構成と調査項目 (案)」調査
- ③ 令和3 年度第2 回 基本調査委員会 議事概要

V. 議事内容

令和3 年度 私立大学情報環境基本調査の「目的及び調査内容の構成と調査項目」について検討を行った。

1. 本年度調査の内容構成とアウトカムの内容について

本調査は、社会全体が大きく変わろうとしている中で、学生に最良の教育を如何にデザインするのか、各大学で検討がはじめられつつある視点に限定して以下の方針で行うことを確認した

**調査内容構成の考え方**

(1) 大学教育を取り巻く社会の変化

大学教育を取り巻く大きな社会の変化を以下のように整理した。

- ① コロナ禍で人との接触が制限される中、新しい生活様式や働き方・教育などが見直され、ニューノーマルとして ICT を駆使した変化への対応が不可欠となっている。
- ② Society5.0 社会が迎え、様々な分野で仮想空間と現実空間を融合しデータを中心に新たな価値の創出が始まり、地球規模で構造的な変容が展開しつつある。
- ③ 人生 100 年時代と言われる健康長寿社会を迎え、生涯に亘って、社会の中で生きがいを感じる新たな活躍の場が実現できるようになってきた。
- ④ このような変化が激しく予測が困難な時代の転換点にあつて、今、大学教育機関は未知の時代を切り拓いていく、多様な人材の育成を負託されている。

(2) 調査の考え方について

本調査は、社会全体が大きく変わろうとしている中で、学生に最良の教育を如何にデザインするのか、各大学で検討がはじめられつつある視点に限定し、取組の状況や考え方、課題などを調査することにした。

(3) 調査の目的

一つは、学修者個々の可能性を伸長する教育、いわゆる学修者本位の教育を実現するための取組、二つは、ポストコロナ社会で質の向上を目指すための新たな学びの創出として、対面と遠隔を効果的に組み合わせたハイブリッド型教育の在り方、三つは、学修の質保証をエビデンスベースで可視化し、学修者自身による学びの振り返りを身に付ける教学マネジメントの確立に向けた関与の仕方を中心に、教員の受け止め方を把握することにした。

**調査結果の分析等アウトカムの内容について**

(1) 調査単位について

- ① 加盟大学の教員 (教授・准教授・講師・助教) を対象に実施する。
- ② 担当されている授業科目の中で、長年担当されている科目、受講学生数の最も多い科目など主要科目とお考えの 1 科目を対象に行う。
- ③ 対象とする科目は、講義あるいは実験・実習・演習とし、ゼミを除く。
- ④ 調査結果は、人文科学系、社会科学系、理学系、工学系、情報科学系、農学系、保健系、生活・家政系、教育系、芸術系、教養系の 12 の学系別に集計する。

## (2) 分析・アウトカムの考え方について

- ① 学修者本位の教育実現への対応では、「何を学び、身に付けることができるのか」の対応に教員全員が対応しているのか注視する。その上で、学修者の個別最適な対応の在り方について傾向を確認する。
- ② 対面と遠隔を効果的に組み合わせたハイブリッド型教育への対応では、どの程度の教員がハイブリッド型教育への対応を考えているかが注目される。特に関心がない教員については、学修者本位の教育の実現との関係性などクロスする必要がある。
- ③ 教学マネジメントの確立に向けた関与の仕方では、「関心がない」、「担当授業との整合性は確認していない」と学修者本位の実現での「関心がない」との関連性を確認し、無関心な教員がどの程度いるのか、明らかにした上で、教員の授業改善に対する意識を高めるFDについて提言する必要がある。
- ④ ICTを活用して顕著な効果をあげている事例では、学系別に参考となる取組みを表にしてまとめる。その際、大学名、氏名も掲載し、関連情報へのアクセスについても可能な範囲で掲載する。特に、特徴のある事例は別途追跡調査を依頼し、掲載する。5年先の計画が考えられる場合も同様に表にして掲載する。

## 2. 調査の目的及び調査内容の構成と調査項目（検討案）について

本年度の調査は「スマートフォン、パソコン、タブレット端末」等で調査することを前提に、目的、調査内容の構成、調査項目を見直し、スマートフォンで表示できる18文字を想定して検討した。

### 1. 調査の目的

変化の激しい予測困難な時代にあって、未来を託す多様な人材の教育を負託されておられる先生方は、ニューノーマルでの教育をどのように受け止め対応すべきとお考えでしょうか。

学修者本位の教育実現への取組み、ポストコロナ社会における質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい学びの創出、学修成果の質保証に向けた教学マネジメントの確立に向けた関与の仕方、顕著な教育効果があるICT活用の取組みを披瀝いただき、文部科学省、大学及び関係機関に施策への反映を呼びかけることにしています。

### 2. 調査内容の構成と調査項目

以下の（案）は、スマートフォンで表示できる18文字を想定して大まかな項目と内容を記述したものであり、表現の見直し、内容の精査、選択肢等の選定を行い、次回委員会で検討改めることにした。

- (1) 学修者本位の教育(個々人の可能性を伸長する教育)の実現を目指す対応について、主要と考える取組みを3つ以内選んで下さい。
  - ① シラバスや授業で「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にする。
  - ② 卒業社会人から役に立った授業体験を対面や遠隔(ICT)で紹介し、学びの重要性を気づかせる。
  - ③ 授業を社会課題等の解決に連動し、学修意欲の向上と主体性を促進する。
  - ④ 学修者の興味・関心のある授業を設定し、学内や学外で学修成果の発表・評価を行う「場」を対面や遠隔(ICT)で実施する。
  - ⑤ ポートフォリオ等で理解度や成長度を把握し、対面や学修管理システム(LMS)等で個別に教育・学修指導を実施する。
  - ⑥ 授業中や授業後に学修者同士で授業内容を確認できるようにするため、教え合い・学び合いを対面やLMS等で実施する。
  - ⑦ TAやSAによる学修支援を対面や遠隔(ICT)で実施する。
  - ⑧ 学修者(海外留学者、障害者等)の環境に応じて、対面授業と遠隔(ICT)授業を実施する。
  - ⑨ 不安・悩みを抱える学修者に教職員が連携し、対面やメールで個別に相談・助言を実施する。
  - ⑩ 特に学修者の立場に配慮した取組みは考えていない。
  - ⑪ 上記以外の対応(30字以内で記述下さい)

(2) ポストコロナ社会における質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応について、主要と考える取組みを4つ以内を選んで下さい。

※予測が困難な時代を切り拓く人材の育成、質の向上を目指す教育の取組み・考え方を聞く

- ① 授業は対面を中心とするが、理解度・成長度に効果が期待できる場合は遠隔(ICT)によるオンデマンド・リアルタイム配信を積極的に導入する。
- ② 事前学修を遠隔(ICT)で行い、対面で演習を中心に意見交換を行う反転授業を充実する。
- ③ 企業・地域社会の課題分析を遠隔(ICT)で行い、そのエビデンスをもとに対面で深い議論を行う問題発見・課題解決型学修を推進する。
- ④ 幅広い知識の獲得を遠隔(ICT)で行い、物事を多角的に捉える訓練のリベラルアーツ教育のアクティブラーニング(AL)を対面で推進する。
- ⑤ SDGs等未知の問題解決の演習を対面で行い、時間と場所の制約を受けない分野を超えた意見交換、解決策の発表・評価を遠隔(ICT)で推進する。
- ⑥ 対面と遠隔(ICT)で学びの成果を地域社会や企業に応用・活用する社会実装教育を推進する。
- ⑦ 学びの国際通用性を高めるため、対面と遠隔(ICT)でグローバルな国際連携教育を推進する。
- ⑧ デジタル技術(VR、シュミレータ等)で実験・実習・実技の疑似体験を訓練し、対面で安全な実体験教育を実施する。
- ⑨ 長期インターンシップによる社会体験教育を対面と遠隔(ICT)で推進する。
- ⑩ 学びの成果の発表・評価を学内は対面で、学外は遠隔(ICT)で行うコンペティションを推進する。
- ⑪ 特に関心がない
- ⑫ 上記以外の対応(30字以内で記述下さい)

(3) 学修の成果を学修者が実感できる教学マネジメントの確立に向けた関与の仕方について、どのように受け止めていますか、3つ以内を選んで下さい。

- ① 教学マネジメントは学長を中心とする執行部が対応しているので関心がない。
- ② 3ポリシーは知っているが、担当授業との整合性は確認していない。
- ③ 授業科目と学位授与の方針との関係性を関係教員間で相互に確認している。
- ④ 学修ポートフォリオによる授業の自己点検を行い、改善に向けた取組みを学修者に公表している。
- ⑤ 学修者に授業での達成度を図・表等でフィードバックし、学びの振り返りを促している。
- ⑥ 教育改善に向けて、学内の学修者・教職員や学外の企業等関係者とオープンな意見交流ができるようにしたい。
- ⑦ 学部・学際横断的な教育の推進を目指して、教育プログラムの編成、授業科目の統合・調整の議論に参加したい。
- ⑧ 遠隔(ICT)環境下での試験実施方法の開発、新たな学修評価方法の開発に取組みたい。
- ⑨ 教育の質の向上のための対面と遠隔(ICT)を組み合わせたFDの充実・高度化の研究に参加したい。
- ⑩ 上記以外の対応(30字以内で記述下さい)

(4) 現在の授業でICTを活用して顕著な効果をあげている事例があれば、授業科目名、授業内容・方法・効果の概要を40字以内で記述してください。なお、Webサイトに教材、授業現場等の関連情報があればURLを記載してください。

(40字以内で記述下さい ) URL (http://
--------------------------------

(5) 5年先の授業でICTを活用して顕著な効果が期待できる計画が考えられる場合も同様に概要を40字以内で記述してください。

(40字以内で記述下さい ) URL (http://
--------------------------------

### 3. 回答者情報

大学明	
学部名	
学科名	
職位	教授・准教授・講師・助教
氏名	
e-mail	
電話・FAX	

### 4. 学系コード表

人文科学系、社会科学系、理学系、工学系、情報科学系、農学系、保健系、生活・家政系、教育系、芸術系、教養系

学系コード表			
人文科学系	11 文学 12 外国語学 13 史学 14 地理学 15 哲学 16 心理学	情報科学系	51 情報科学 52 情報工学 53 情報システム学 54 その他
	17 文化関係学 18 人間関係学 19 言語学 1A 宗教学	農学系	61 農学 62 農芸化学 63 農林工学 64 農業経済学
	1B その他		65 林学 66 林産学 67 獣医 畜産学 68 水産学
社会科学系	21 法学 22 政治学 23 商学 24 経済学 25 経営学 経営情報学	保健系	71 医学 72 歯学 73 薬学 74 看護学 75 その他
	26 会計学 27 社会学 28 社会福祉学 29 政策関係学	生活・家政系	81 生活 家政学 82 栄養 食物学 83 被服学 84 住居学
	2A 環境情報学 2B 国際関係学 2C コミュニケーション関係学		85 児童学 86 その他
2D その他	教育系	91 教育学 92 体育学 93 その他	
理学系	31 数学 32 物理学 33 化学 34 生物学 35 地学 36 その他	芸術系	A1 美術 A2 デザイン A3 音楽 A4 その他
工学系	41 機械工学 42 電気通信工学 43 土木工学 44 建築工学	教養系	B1 教養学 B2 教養課程(文科) B3 教養課程(理科)
	45 応用化学 46 応用理学 47 原子力工学 48 鉱山学		B4 教養課程 その他 B5 統計学
	49 金属工学 4A 繊維工学 4B 船舶工学 4C 航空工学		B6 その他
	4D 経営工学 4E 工芸学 4F その他		

### 3. 主な意見

- ① 本年度の調査は「スマートフォン、パソコン、タブレット端末」等で調査することを前提に進めることにし、マークシートによる回答は行わない。
- ② 記述回答については、スマートフォンでの入力を前提にするがスマートフォン、パソコン、タブレット端末にいずれでも回答可能なシステムにする。
- ③ 記述回答は「スマートフォン」での入力を前提に「40字以内」で設計し、「簡潔に本質を記入」いただくようにする。
- ④ 全部読んでから「4つ以内選」などを選択して回答するのは「回答教員の負担が大きい」ので、設問ごとに読んで選択肢から回答し、次の設問を読んで選択肢から回答のようにしてはどうか。  
全ての設問に例えば「◎、○、一、△、×」のようなイメージで回答してもらう。
- ⑤ (1) 学生に最良の教育を如何にデザインするのか、学修者に理解させる取組みでは、主要と考える取組みについて考え方を聞くために「受け止め方を各選択肢について、回答下さい」のように改めることにした。
- ⑥ 設問は40文字で3行程度としてその下に選択肢を3行程度として設計すれば1問が画面の2/3程度で収まる。
- ⑦ 設問と選択肢については、本日の検討を踏まえて委員の先生に(1)、(2)、(3)の項目について分担して、「内容の見直し」、「表現の修正」、「設問の選択肢」などの検討を次回委員会までお願いすることにした。
- ⑧ (3)で、教学マネジメントの確立に向けた関与の仕方では①で関心がないと答えたらそれ以下の設問に回答した場合は矛盾してしまふことも考えられるが、「仕組みづくり」としての答えと「教員の取組み」としての答えがあるで区分して考えることが必要なので、このことも踏まえて検討をお願いすることにした。
- ⑨ (1) 学修者本位の教育(個々人の可能性を伸長する教育)の実現を目指す対応について「①シラバスや授業で「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にする。」は、説明する、明示するの意味であり「振り返りや確認の仕組み」ではない。「教員が学修者の立場で授業を行っているか」、「説明し理解させているか」、「教員の学修者本位の学びへの取組や考え方を聞き自己点検いただくことを目的に考えることである。」

- ⑩ (2) ポストコロナ社会における質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応では、⑤のように...は対面でやり...は遠隔(ICT)でやるの表現だが、対面と遠隔(ICT)を目的や効果に応じて使い分け、遠隔(ICT)による新しい学びの場や機会を拡大する取り組みや考え方をお聞きすることを目的に考える。そういう意味で「質の向上を目指した」を入れ、対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応としている。
- ⑪ 調査内容の構成と調査項目はこれで良いと思うので、委員の先生に(1)、(2)、(3)について分担して「表現や内容の見直し」、「設問の選択肢」などを検討いただき次回の委員会で取りまとめたい。なお、スマホでの入力では厳しいと思い、今回「課題の質問」を入れなかったが、考え方と課題は入れるべきなので次回の委員会で「考え方」+「実現に向けた課題」を入れたいので分担して検討をお願いしたい。  
特に(1)学修者本位の教育では「先生の考え方はわかった」それでは「実現に向けた課題は何か」を聞くことが大事でこのことで論理の展開ができる。
- ⑫ (1)と(2)では「主要と考える取り組み」について聞くようにしているが、「実施している」のでこう考える。「実施していない」がこう考えるで答えが異なるのではないかと。  
※ 表現の問題であるが「実施しているかどうか」は重要でなく、「必要がある」と考えているかどうかを聞くことが目的である。「実施していないが必要がある」など考え方や姿勢、どうしたら良いか考え方を聞きたい。実施している」、「していない」のマクロな調査でなく「考え方に焦点」を絞って調査したい。  
※ 表現に問題があれば修正して欲しい。※ 実施する→実施する必要がある。行っている→行なう必要がある。など
- ⑬ 回答者情報に大学執行部の業務経験をお聞きすることなどを検討したが今回はやらないことにした
- ⑭ 回答者情報には電話・FAX・e-mailとし、携帯電話番号は任意とする
- ⑮ 回答いただいた先生が教育改善に活用で知る資料を提供できる、大学が教育改善の基礎資料として活用していただけるような資料を提供可能な調査とする。
- ⑯ 選択肢は4つくらいでサクサク回答できるようにする  
例えば ①非常にそう思う、②そう思う、③分からない、④そう思わない、⑤全くそう思わないなど

#### 4. 調査内容の構成と調査項目の検討について

- ・ 内容の見直し、表現の修正、設問の選択肢などを分担して、次回委員会までに委員に検討いただくことにし、検討結果を次回委員会「10月20日(水)」の前日までに事務局にお送りいただくことにした。

- (1) 学修者本位の教育(個々人の可能性を伸長する教育)の実現を目指す対応。  
※ 高木委員にお願いすることにした。
- (2) ポストコロナ社会における質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応。  
※ 今井委員と今泉委員に検討いただき確認を山名担当理事にお願いすることにした。
- (3) 学修の成果を学修者が実感できる教学マネジメントの確立に向けた関与の仕方。  
※ 井上委員にお願いすることにした。

#### 5. 次回の委員会

- ・ 令和3年10月20日(水) 17:00
- ・ 調査内容の構成と調査項目の内容について、各委員に検討いただいた内容を踏まえて検討を進める。
- ・ 山名先生は学事の都合で少し遅れての参加になる
- ・ 片岡先生は教授会で18:00以降の参加になる。

検討結果を「10月19日(火)」に事務局にお送りいただくことにしたが、準備の都合で10月18日(月)迄にお送りいただくようにメールで修正をお願いした。